

をさなごこち(幼心地) その四

リスとカラス

みなみで
南 出喜久治

へいせい
平成22年7月25日

しる
記す

少し前、ユーチューブ(YouTube)に、死んだリスを食べようと狙っているカラスに対して、仲間のリスが死んだリスを必死に守ろうとする姿を映した動画が話題になったことがありました。

<http://www.youtube.com/watch?v=8sOw3mCz40c>

それには、「死んだ友達の体を守ってカラスを追い払う驚くべきリスの闘い」というような題名がつけられています。実際に見た方がわかりやすいですが、言葉で説明すると次のような映像です。

道ばたか、駐車場か、コンクリートなどで舗装されているところに、死んだリスが横たわっています。カラスがそれをついばもうとして、そのそばにいます。そこへ仲間のリスがカラスを追い払うために近づきます。仲間のリスと死んだリスとが親子なの夫婦なのか、単なる仲間なのかわかりません。仲間のリスはシッポの毛を立てて、それを激しく振るわせてカラスを脅かします。カラスは後ずさりしますが、また別のカラス一羽もやってきて、さらには、もう

一羽も加わって、三羽のカラスが死んだリスを狙ってきま
す。カラスもまた羽を広げてジャンプしたりして仲間のリ
スを脅かします。リスもこれに立ち向かって、これまで以
上にシッポの毛を立たせて振るわせ、後ろ足だけで立ち
上がってさらにカラスを脅かします。そんな戦いが続き
ます。最後がどうなったのかは解りません。

動物の世界では、このような光景は決して珍しくはあ
りません。皆さんは、このような光景を見て、何を感じま
すか。仲間への愛情とか仲間を守ろうとする勇気とか、
死者への弔いや埋葬の心とか、いろんなことが出てくる
でしょう。

しかし、もう少し冷静に考えてみましょう。カラスは、
動物の死骸などを餌にします。そんな簡単に得られる餌が
ないときは、生きたネズミなどの小さな動物も襲います。
リスだって襲われます。そして、リスは、カラスも含め、大
型の鳥に一番狙われやすい動物です。そのため、いざとな
ったら直ぐに逃げられるように体の筋肉が発達し、実に
すばしっこいのです。危険を感じたら直ぐに逃げるのがリ
スの特徴です。

それなのに、どうして、自分も襲われるかも知れないの
に、死んだリスを守ろうとするのでしょうか。それは、仲間
のリスは、死んだリスが「死んだ」という意味を理解してお
らず、さらに、これまで一度もカラスなどから追いかけて回
された命の危険に会わなかったからです。

仲間を守る行動をするのは、本能によるものです。種族を守ろうとする本能（種族保存本能）です。その本能が、自分の命と体を守ろうとする本能（自己保存本能）よりも強い本能だからです。もし、このリスが別の仲間の死と出会った経験があり、カラスに襲われた経験があったとしたら、別の行動をしたと思います。つまり、そのまま見過ごしたでしょう。そのことが自分を守り、自分を守ることによってひいては種族を守ることなるからです。決して、卑怯だとか意気地なしであるなどと言うことはではありません。これも本能が命ずることだからです。

もし、ここに集まってきたカラスの中に、生きたリスやネズミを襲った経験があったカラスがいたとすれば、もしかしてこの仲間のリスをも襲ったかもしれません。しかし、カラスもまた、死んだリスを餌とすれば足りるので、ことさらに生きたリスを狙ったりすることがなかったのです。カラスもまた本能に従って行動しているのです。人間の道徳で言えば、「無益な殺生はしない」ということです。これは、「サバンナ」のお話と同じように、このリスの行動が特別にすばらしいわけでもなく、カラスが悪者でもありません。それぞれ本能に忠実に生きているすばらしい光景なのです。

リスの死骸は、カラスがそれを食べ、その残りを昆虫や微生物などによってきれいに分解されてなくなります。ヒマラヤ周辺や西インドでは、人の死体を野山に置いて、

鳥のついでにまかせた「鳥葬」というお葬式の方法があります。鳥が骨以外の部分をすべて食べ、残りの骨は雨や風などで風化し、さらに微生物などで分解されて、すべて土に帰るのです。これこそ、人は、土から生まれて土に帰るといふ自然の法則に従ったものなのです。死体を火で焼いたり（火葬）するような、特別に人の手が加わった方法よりも、人が食べ物を得て生きてきた道を、今度は反対に進んで、自然に奉仕するという感覚です。

しかし、現在、この「鳥葬」にも異変が起きています。鳥が全部食べなくなったというのです。その原因は、人の食べ物にせいせいで、余りにも多くの食品添加物などの化学物質を含んだ食べ物を食べ続けたり、薬、漬けになっているために、肉質部分に化学物質がたまっているからです。鳥がそれを嫌うのです。つまり、人間は鳥からすると「まずい」のです。これは人間にとっても「まずい」ことです。体を歪めることになるからです。そのうち、人が死んでも、それにカラスが見向きもしなくなる日が来るのかも知れません。なんとかしなければなりませんね。